

2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年11月16日



～超純水技術を駆使して人と水の未来を拓く～

野村マイクロ・サイエンス株式会社

東京証券取引所 市場第一部：6254

1 2022年3月期 第2四半期決算概況



2022年3月期第2四半期 決算のポイント

売上高： 13,618百万円（前年同期比6.3%増）

水処理装置： 8,927百万円（同0.3%減）

旺盛な半導体設備需要を背景に韓国、台湾の半導体関連企業からの大型案件受注が増加したことに加え、国内外の水処理装置案件が順調に進捗

メンテナンス及び消耗品： 4,150百万円（同17.1%増）

中国・台湾、韓国で受注が堅調に推移

その他の事業： 540百万円（同74.5%増）

配管材料の受注増加

営業利益： 2,201百万円（前年同期比38.5%増）

一部の大型水処理装置案件の原価低減が奏功したこととともに、メンテナンス及び消耗品の増収効果等により、売上総利益率が3.7ポイント改善

経常利益： 2,231百万円（前年同期比42.3%増）

親会社株主に帰属する四半期純利益： 1,539百万円（前年同期比44.4%増）

損益計算書の概要

	2021年3月期 (上期)		2022年3月期 (上期)				
	金額 (百万円)	構成比 (%)	期初計画 2021/5/12	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	12,806	100.0	11,664	13,618	100.0	+812	+6.3
売上総利益	3,023	23.6	2,806	3,725	27.4	+702	+23.2
営業利益	1,588	12.4	1,126	2,201	16.2	+612	+38.5
経常利益	1,568	12.2	1,129	2,231	16.4	+663	+42.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,066	8.3	766	1,539	11.3	+473	+44.4

貸借対照表の概要

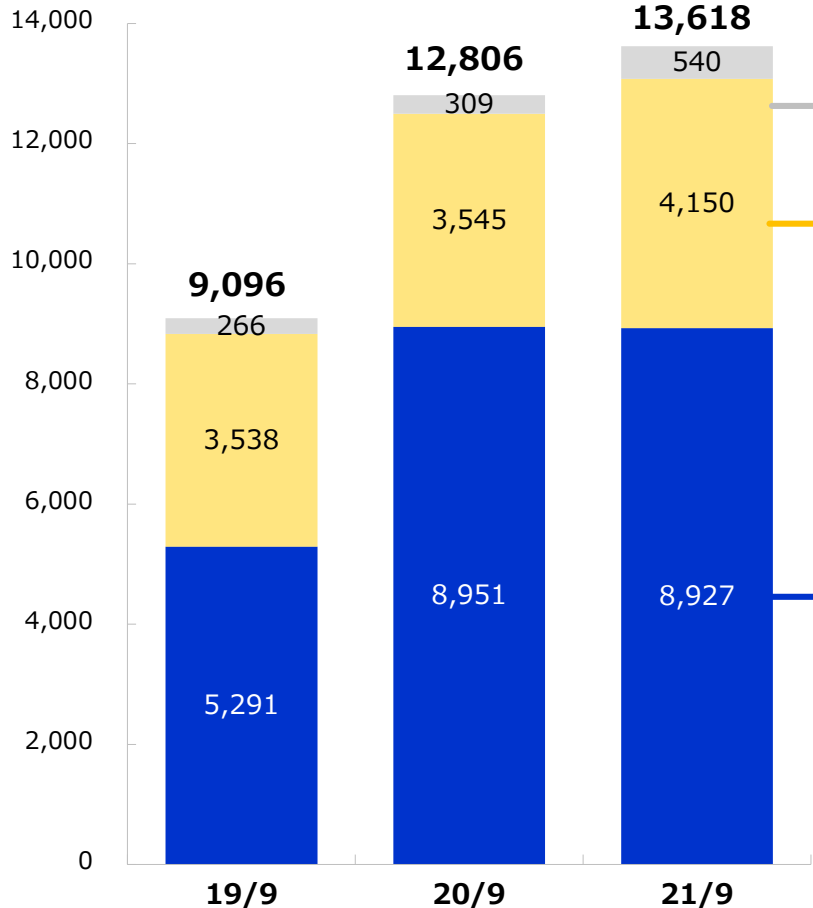
	2021年3月期 (期末)		2022年3月期 (上期)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	21,379	86.4	22,785	86.6	+1,405	受取手形、売掛金及び契約資産 +2,110
固定資産	3,378	13.6	3,529	13.4	+150	
資産合計	24,758	100.0	26,314	100.0	+1,555	
流動負債	11,127	44.9	11,708	44.5	+580	未払金 +435 短期借入金 +370
固定負債	440	1.8	424	1.6	△15	
負債合計	11,568	46.7	12,133	46.1	+565	
純資産合計	13,190	53.3	14,181	53.9	+990	利益剰余金 +941
負債・純資産合計	24,758	100.0	26,314	100.0	+1,555	

事業別売上高

水処理装置事業

■ 水処理装置 ■ メンテナンス等 ■ その他の事業

(百万円)



その他

前年同期比230百万円増
(同74.5%増)



メンテナンス等

前年同期比605百万円増
(同17.1%増)

【増収地域】 韓国、中国・台湾
【減収地域】 日本、アメリカ



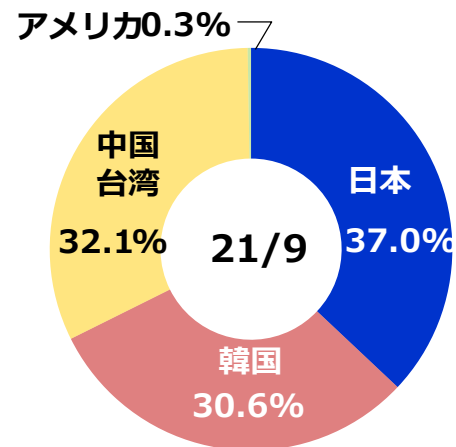
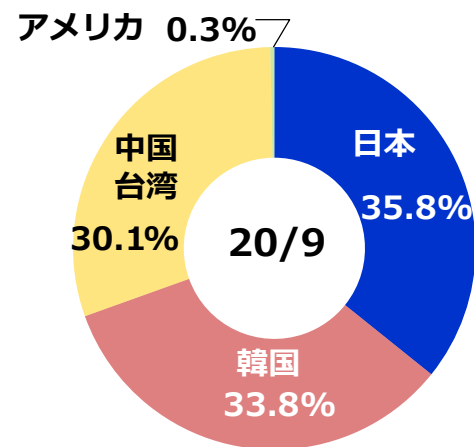
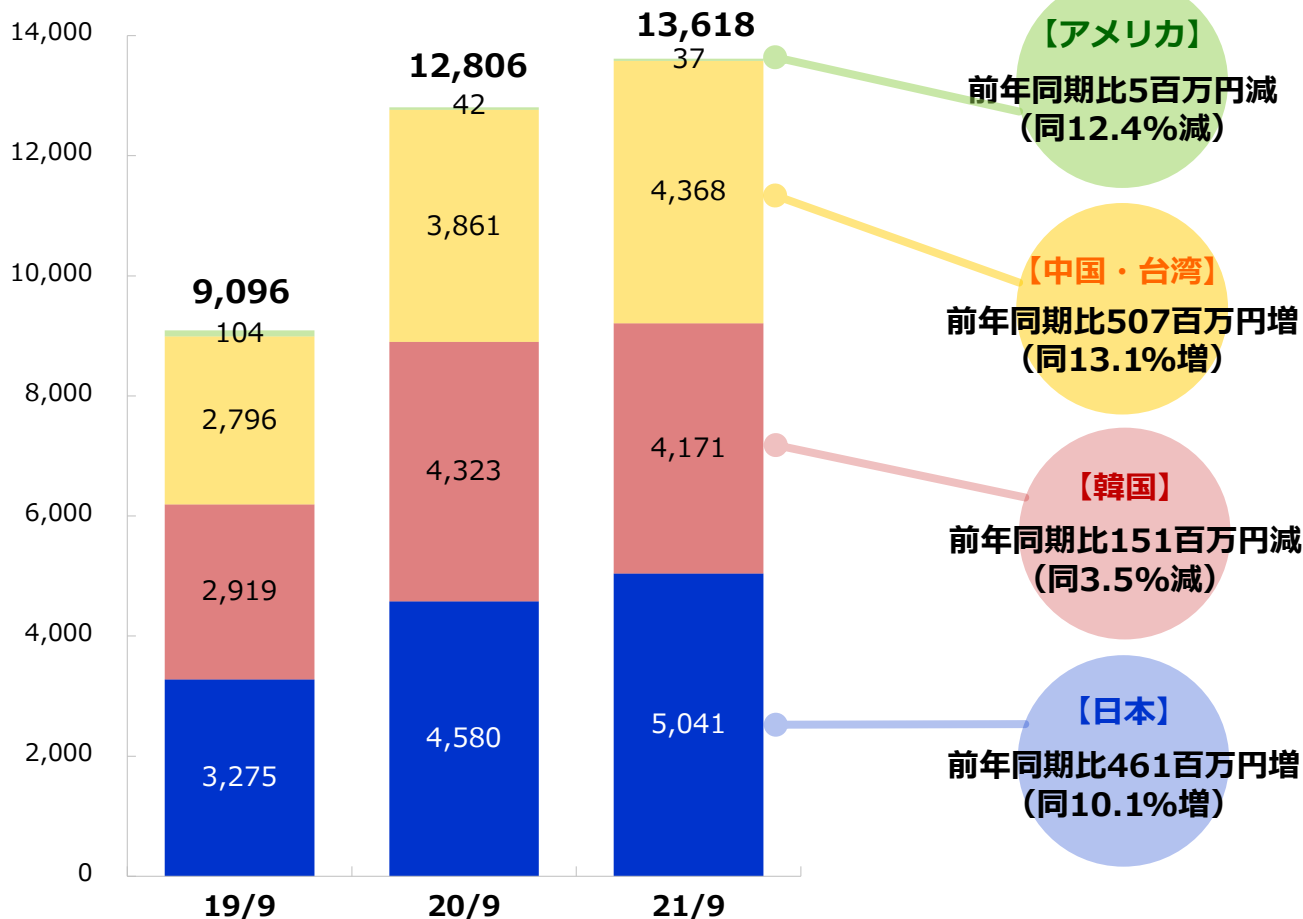
水処理装置

前年同期比24百万円減
(同0.3%減)

【増収地域】 日本
【減収地域】 韓国、中国・台湾

地域別売上高・売上構成

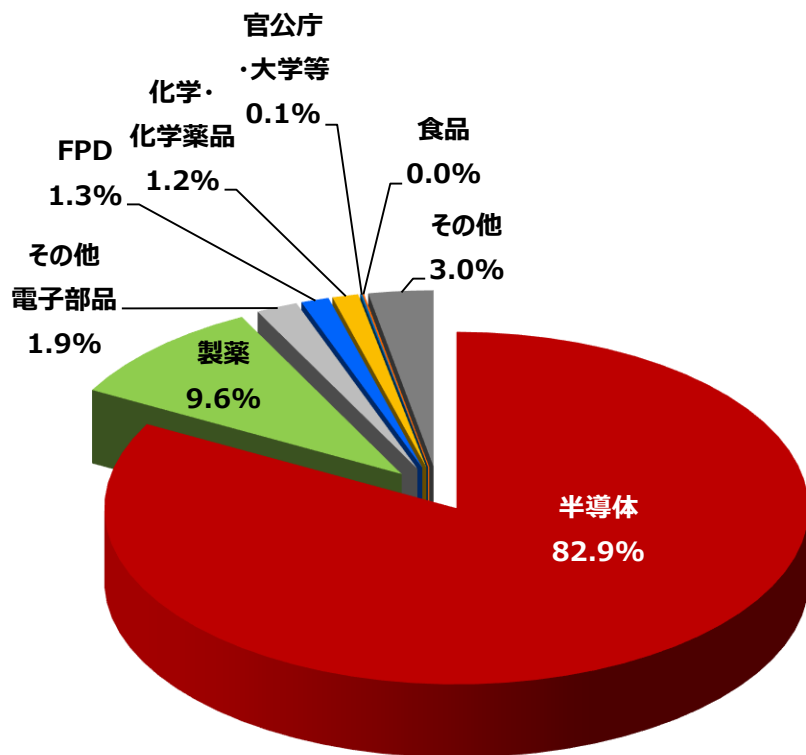
(百万円) ■ 日本 ■ 韓国 ■ 中国・台湾 ■ アメリカ



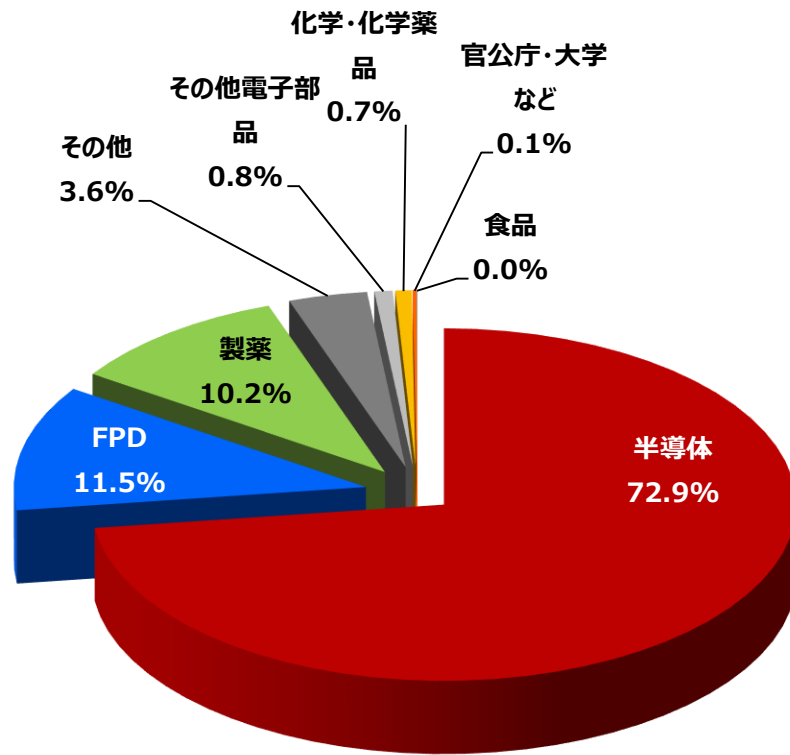
業種別売上構成

売上相手先別 (メンテナンス・消耗品を含む)

2021年3月期 第2四半期



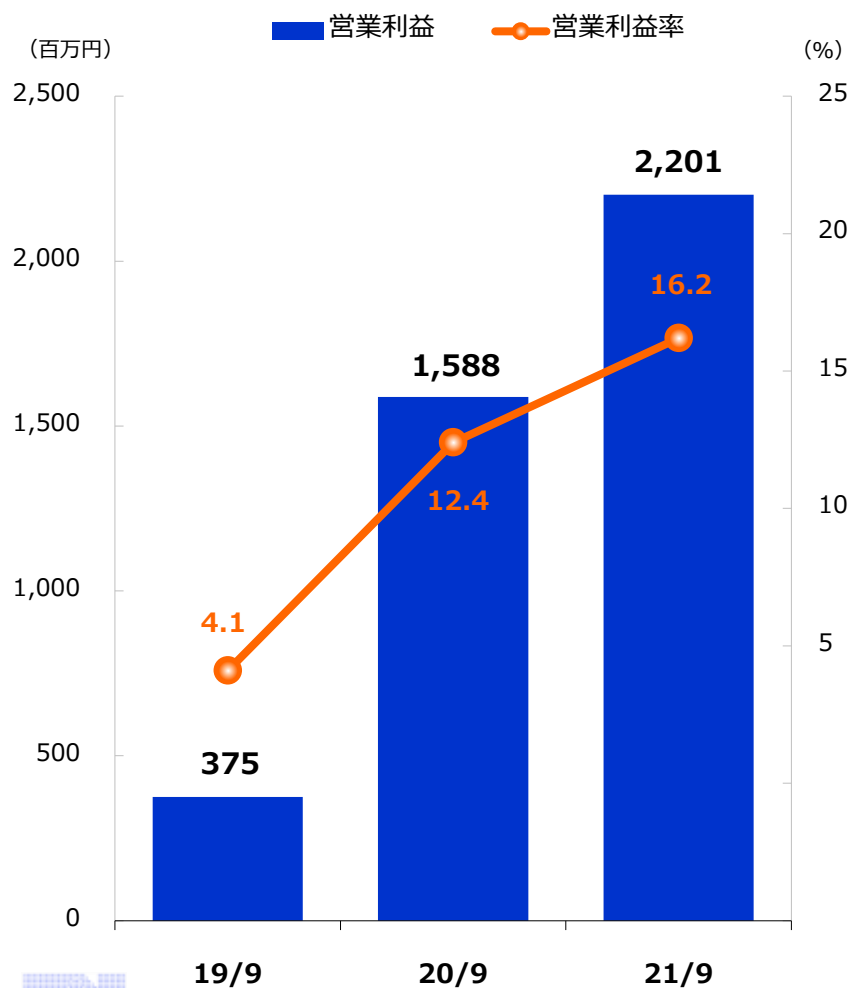
2022年3月期 第2四半期



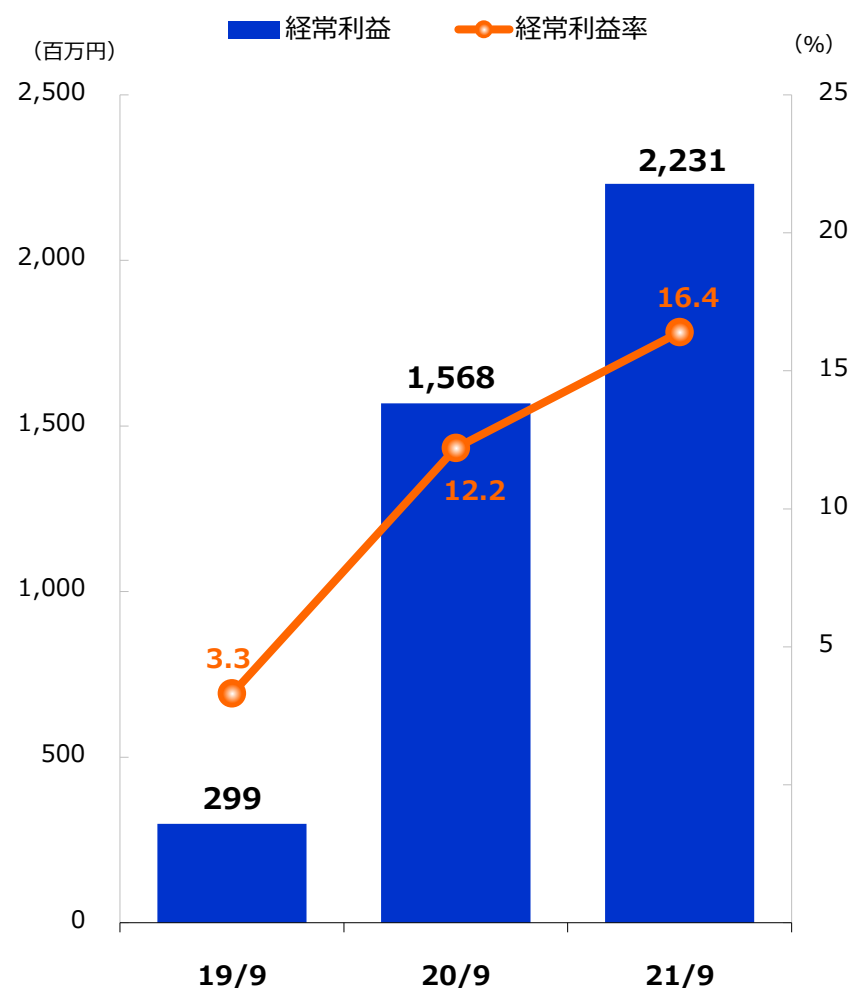
FPD : フラットパネルディスプレイ

営業利益・経常利益

営業利益

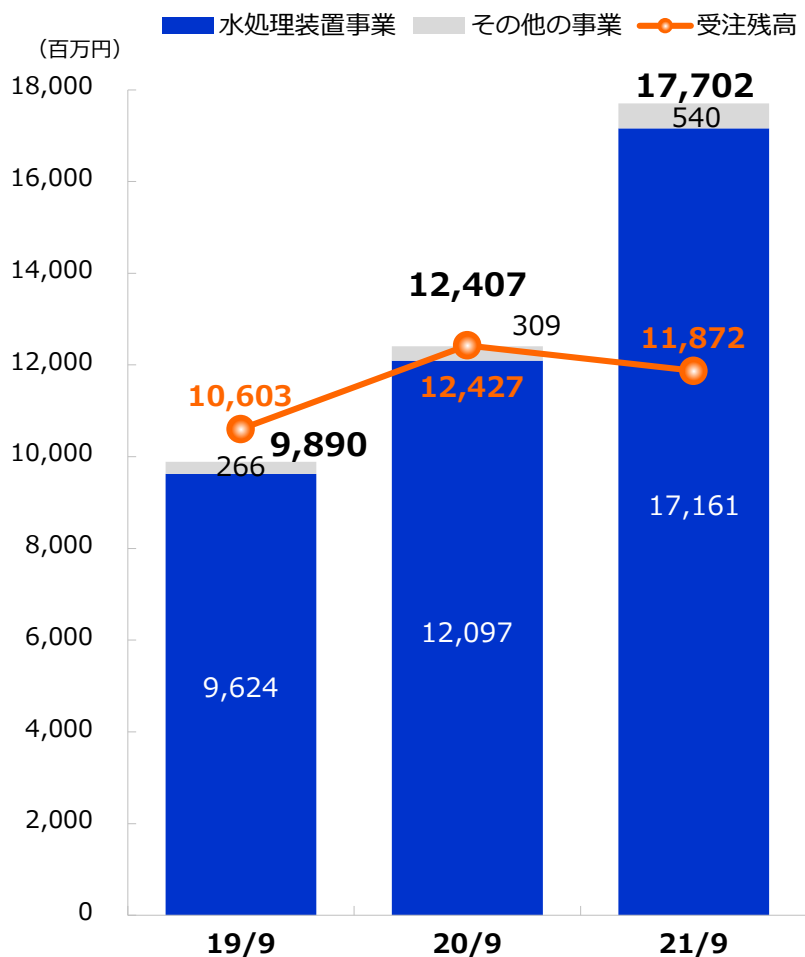


経常利益

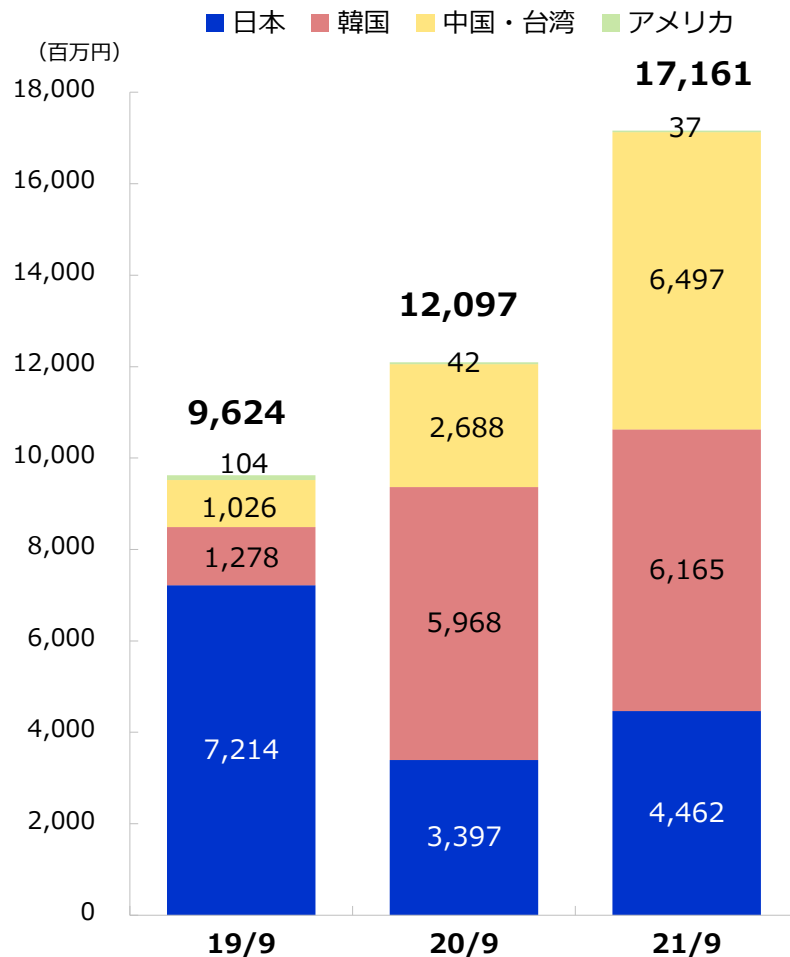


受注高・受注残高

事業別受注高



水処理装置事業の地域別受注高



キャッシュ・フローの概要

(百万円)

	2021年3月期 (上期)	2022年3月期 (上期)	主な増減要因	
営業キャッシュ・フロー	2,519	△1,442	売上債権の増加	△1,707
投資キャッシュ・フロー	756	553	定期預金の払戻による収入	+1,439
			定期預金の預入による支出	△624
フリーキャッシュ・フロー	3,275	△889		
財務キャッシュ・フロー	△386	△246	短期借入による収入	+353
			配当金の支払額	△595
現金及び現金同等物の増減額	3,007	△1,172		
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	6,123	6,790		

2 2022年3月期業績見通し



足許の状況

- 半導体設備投資～各地域とも投資活況が継続
 - ・ DRAMは需要増一服感もあるが、フラッシュ、ロジック、ファブリー、パワーデバイスなど引き続き好調かつ一部品薄状態
 - ・ 投資の前倒し実施含め、韓国、中国・台湾を中心に工場建設・増設案件多数あり
 - ・ 国内では半導体製造装置、個別半導体、製造用薬品等の投資が加速
 - ・ 技術ノードが上昇し、一層の微細化・立体化を予想
- FPD関連投資
 - ・ 在宅、巣籠需要増を背景にOLED（有機EL）、液晶共に需要拡大し、投資が再開
- 製薬市況
 - ・ バイオ製剤、ワクチンを中心とした内需製薬関連投資が活発化
- 米中貿易摩擦、新型コロナウイルス感染拡大による市場の縮小
 - ・ 米中貿易摩擦は継続～半導体が国家経済安全保障の戦略物資化
 - ・ ワクチン接種が進捗し、共存した経済活動に移行しつつも、先行き不透明感あり
 - ・ 原油価格上昇による原材料価格・エネルギーコストの上昇懸念

2022年3月期決算の見通し

売上高は前期比8.7%増の33,000百万円

水処理装置 : 20,873百万円 (前期比1.3%減)

- ・国内では、半導体・製薬関連企業からの受注堅調
- ・韓国、中国・台湾は引き続き半導体関連企業の投資が活発であり、大型案件受注の見込

メンテナンス及び消耗品 : 11,219百万円 (同31.7%増)

- ・各地域とも堅調な受注を見込む

その他の事業 : 906百万円 (同29.7%増)

増収効果により各段階利益で増益

営業利益 : 4,250百万円 (前期比7.0%増)

親会社株主に帰属する当期純利益 : 3,022百万円 (同15.4%増)

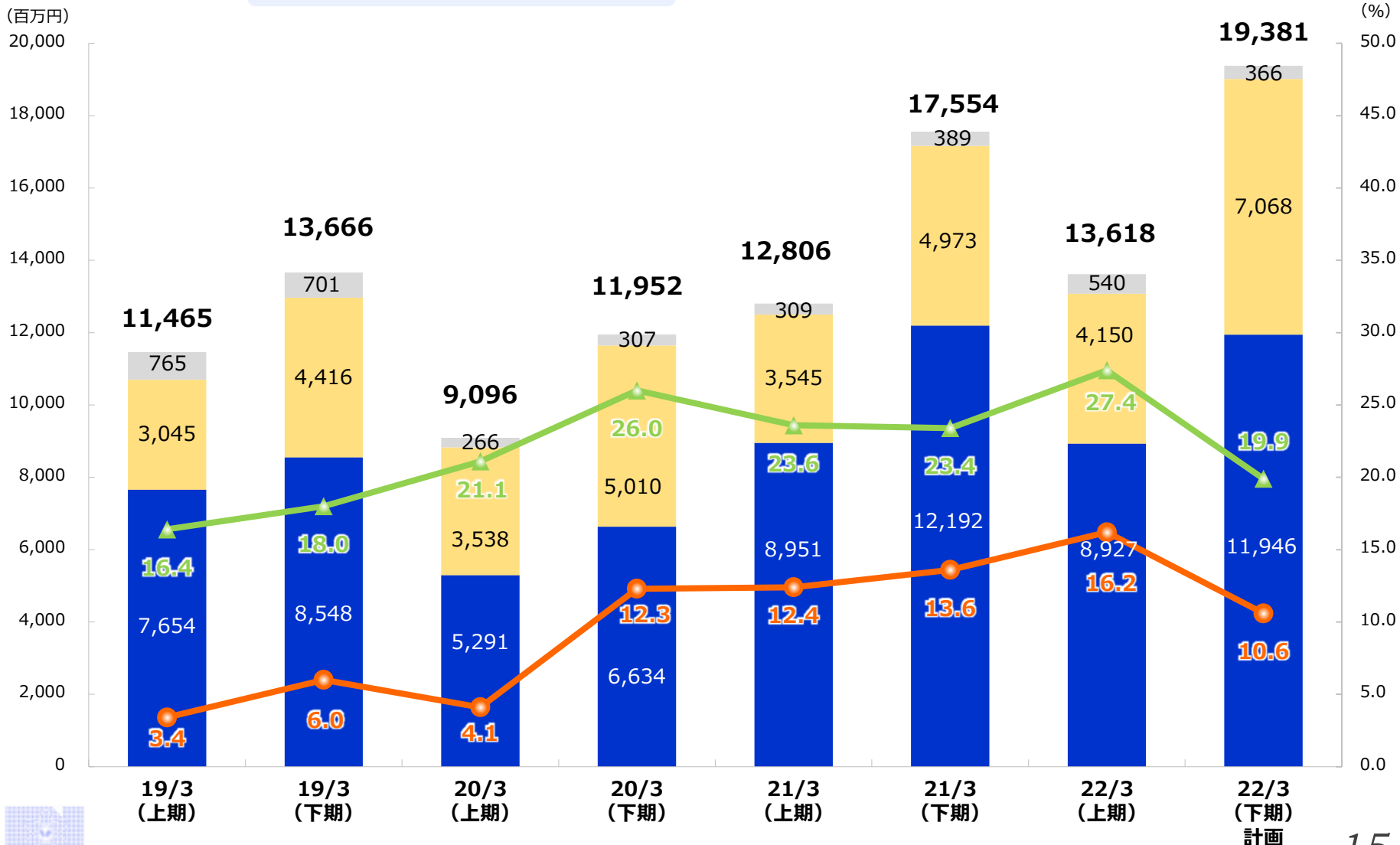
2022年3月期業績見通し

	2021年3月期			2022年3月期				
	上期 (実績)	下期 (実績)	通期 (百万円)	上期 (実績)	下期 (計画)	通期 (計画) (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	12,806	17,554	30,361	13,618	19,381	33,000	+2,638	+8.7
売上総利益	3,023	4,103	7,126	3,725	3,860	7,585	+458	+6.4
営業利益	1,588	2,384	3,972	2,201	2,048	4,250	+277	+7.0
経常利益	1,568	2,068	3,636	2,231	2,047	4,279	+643	+17.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,066	1,552	2,618	1,539	1,483	3,022	+404	+15.4
1株当たり当期純利益	116.06円	168.71円	284.77円	167.31円	161.07円	328.38円	+43.61円	+15.3
1株当たり配当金	0.00円	65.00円	65.00円	30.00円	45.00円	75.00円	+10円	-

業績推移 (半期毎)

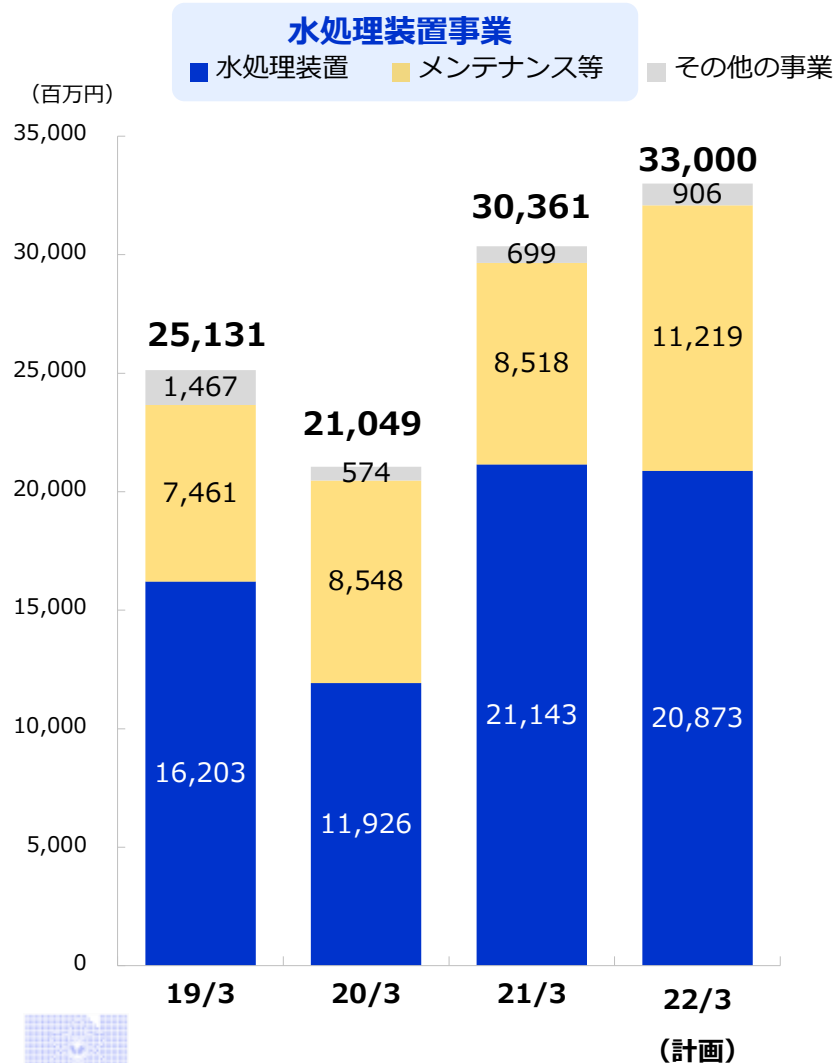
水処理装置事業

■ 水処理装置 ■ メンテナンス等 ■ その他 ▲ 売上総利益率 ● 営業利益率

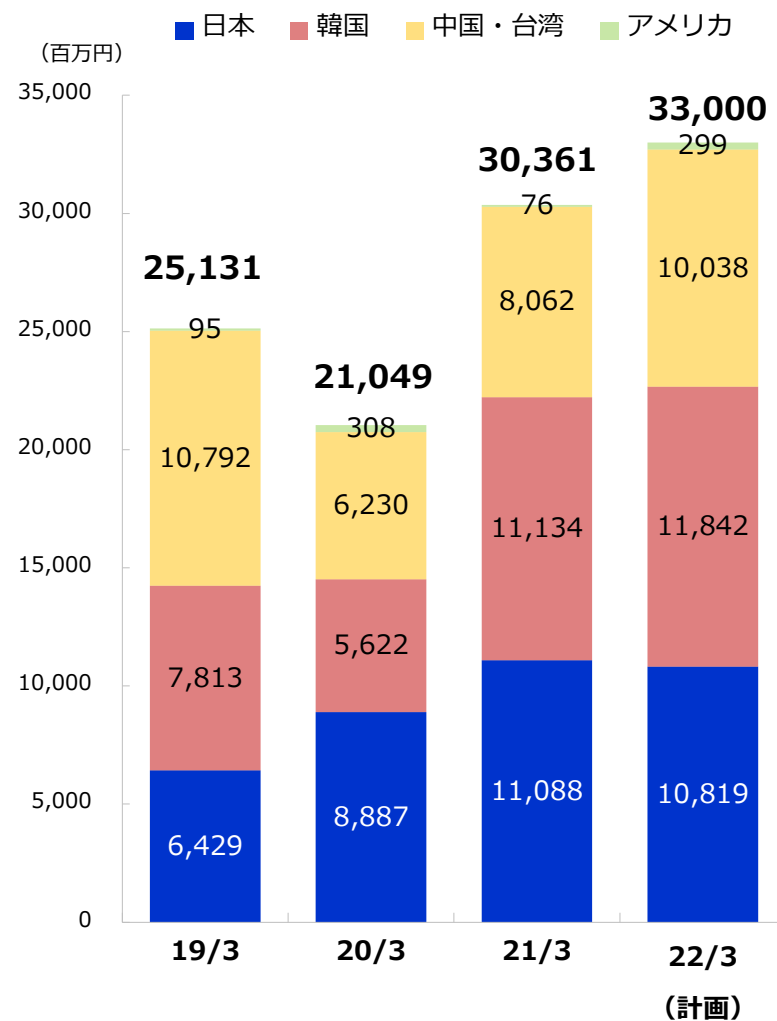


事業別・地域別売上高

事業別売上高

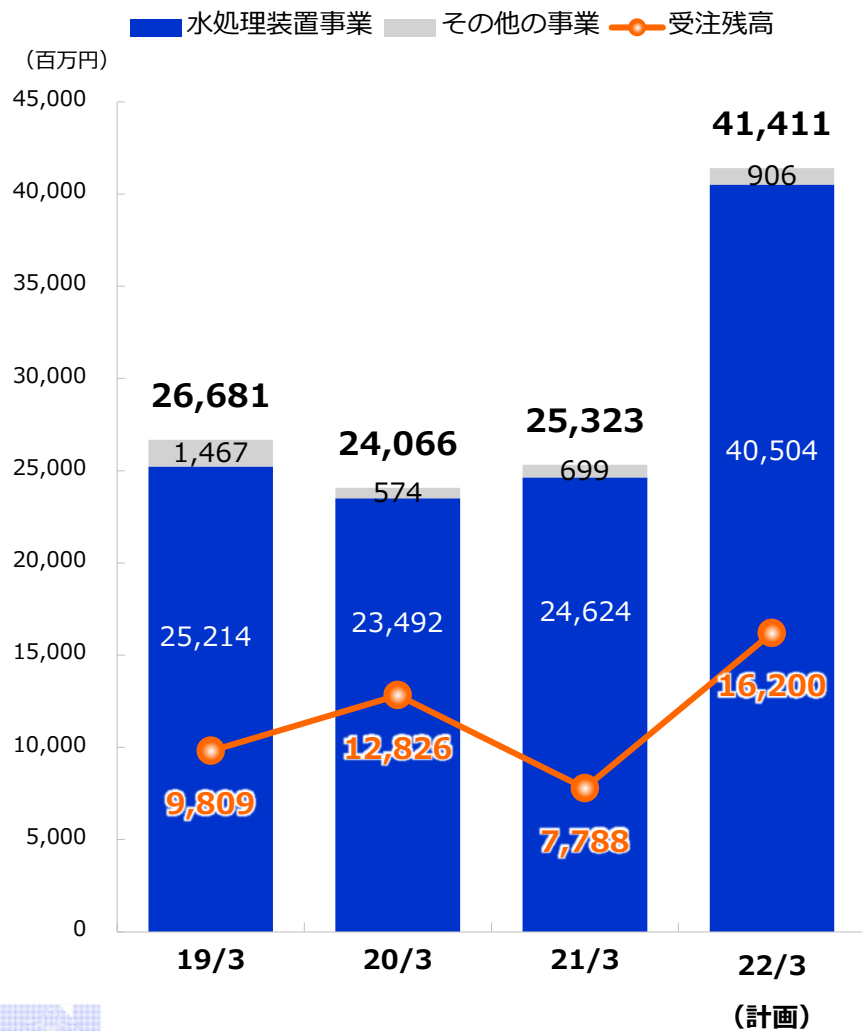


地域別売上高

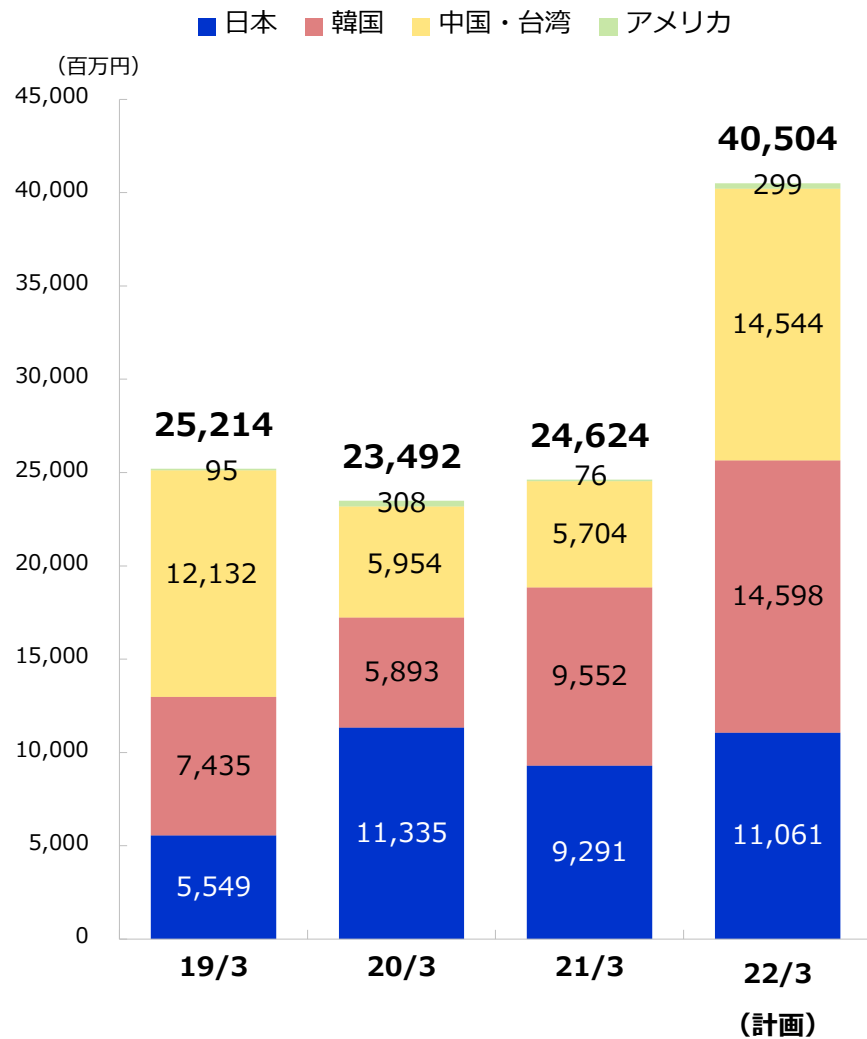


受注高・受注残高

事業別受注高

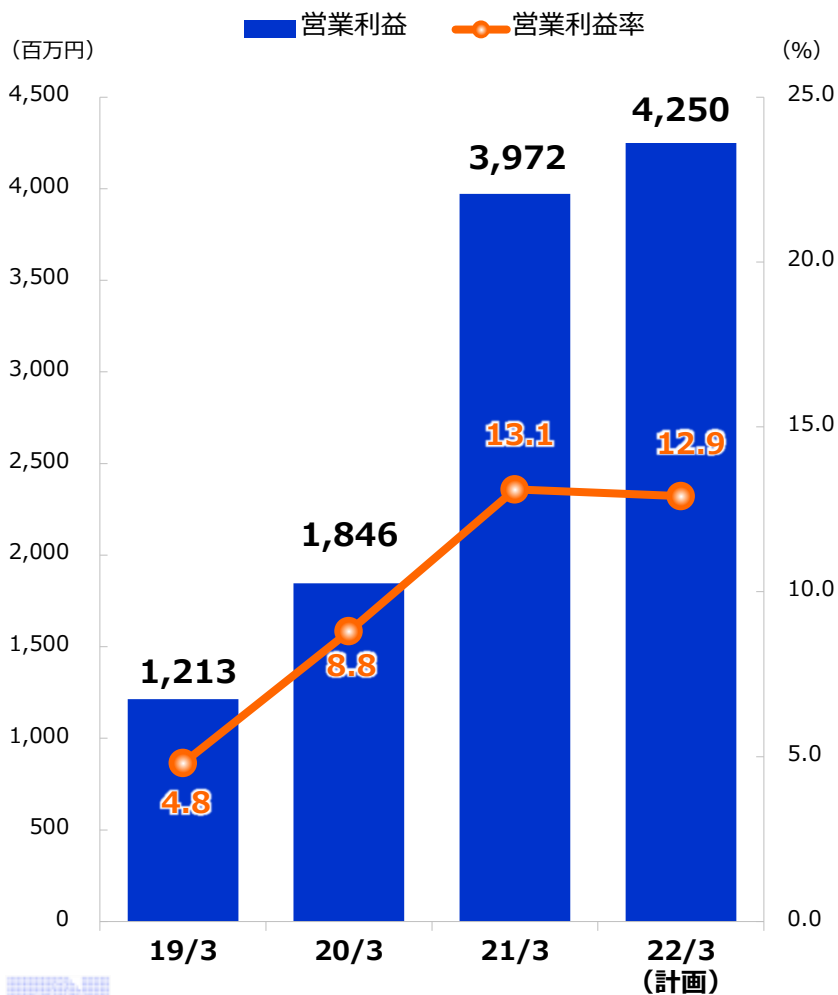


水処理装置事業の地域別受注高

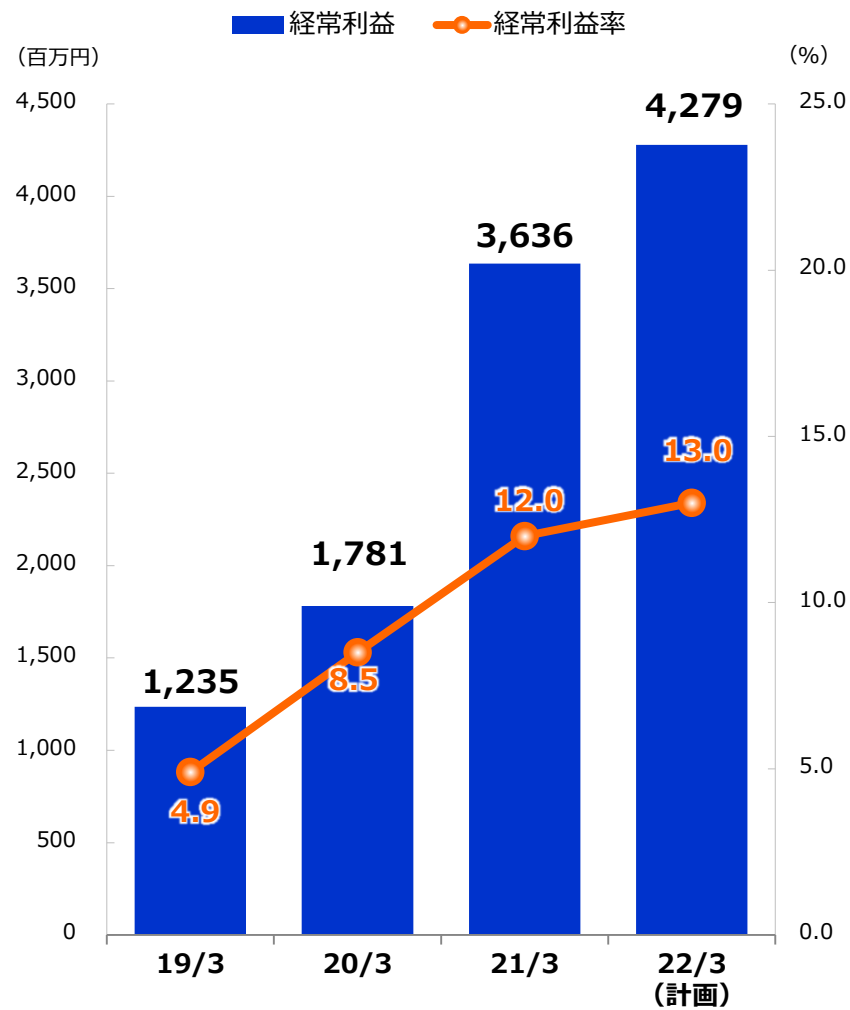


営業利益・経常利益

営業利益

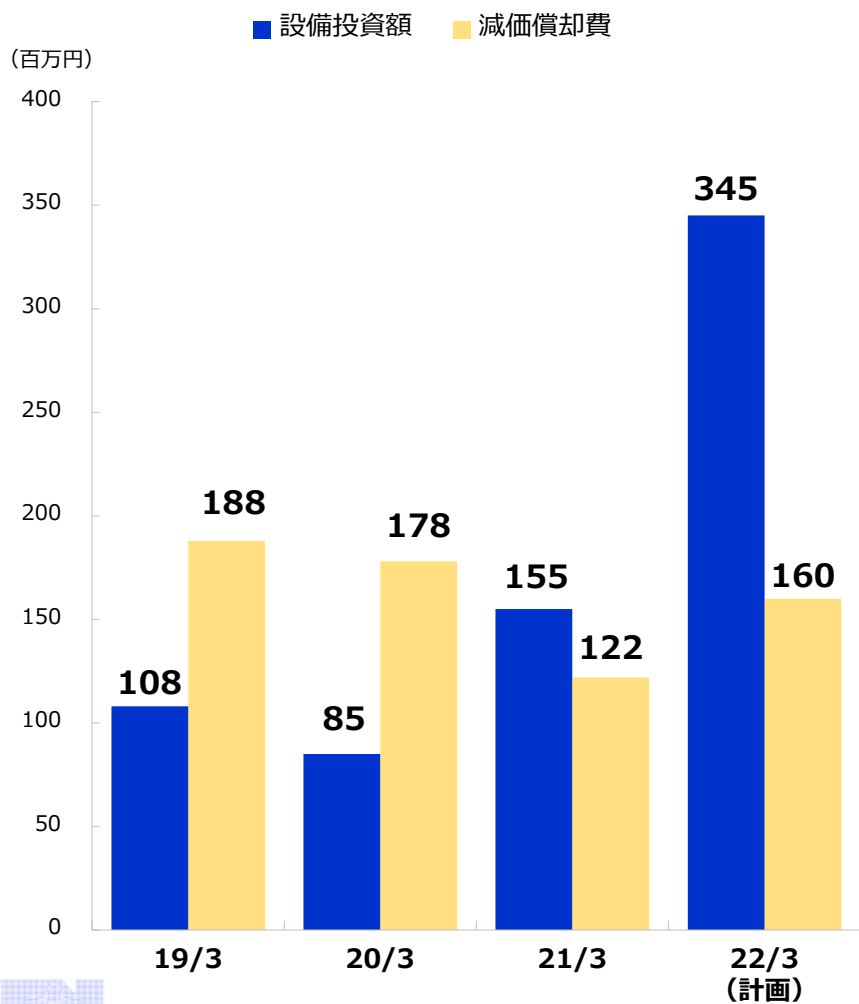


経常利益

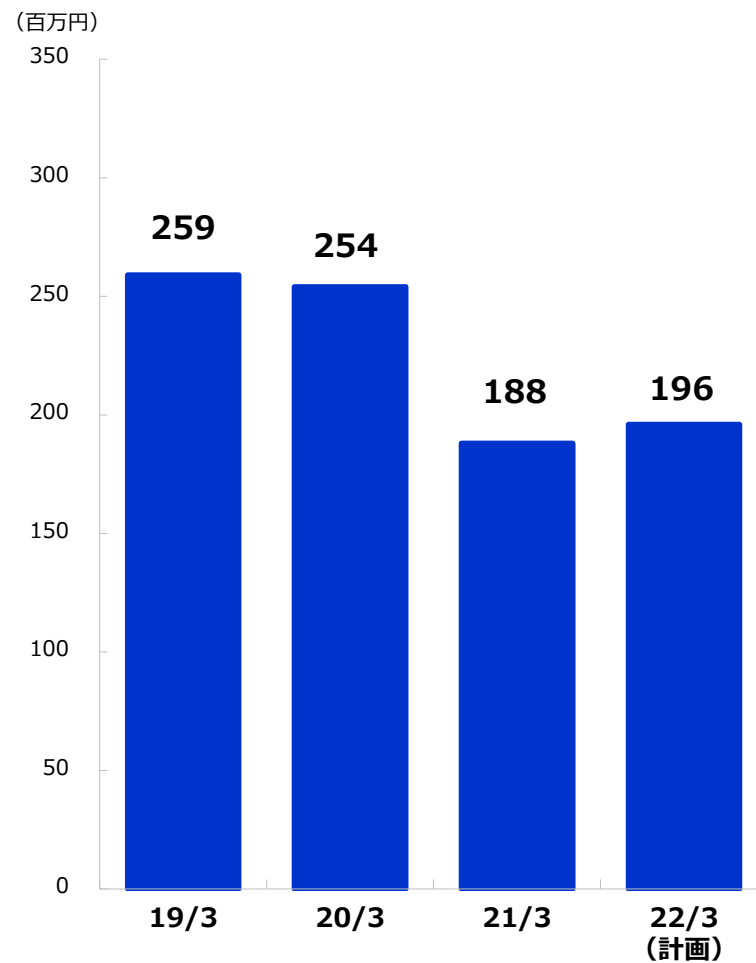


設備投資・研究開発費

設備投資・減価償却費



研究開発費



3 中期経営計画



中期経営計画 概要

経営方針

基本理念

水の純化とその関連技術を通して社会に貢献し、持続的に成長できる会社

経営ビジョン

高純度化技術、環境関連技術を基盤とし、健康サポートに貢献し、持続的な成長と総合基盤強化を目指す

①High Purification

②Eco Solution



HiPES企業

③Health Support

経営目標

1. アジアにおける半導体・FPD・製薬工場向け純水・超純水装置の卓越した企業を目指す
2. 営業利益10%以上をKPIとし、自己資本比率の向上等財務基盤の強化を図る
3. 顧客満足度が高いハイテク技術とサービスを提供し、地球環境貢献と社会的価値向上を目指す
4. 企業価値を向上させ、株主還元を高めていく

'20/8月発表中期経営計画目標

'24/3月期目標

売上高300億円

営業利益10%以上



'21/3月期
達成

今回発表中期経営計画目標

'24/3月期目標

売上高415億円

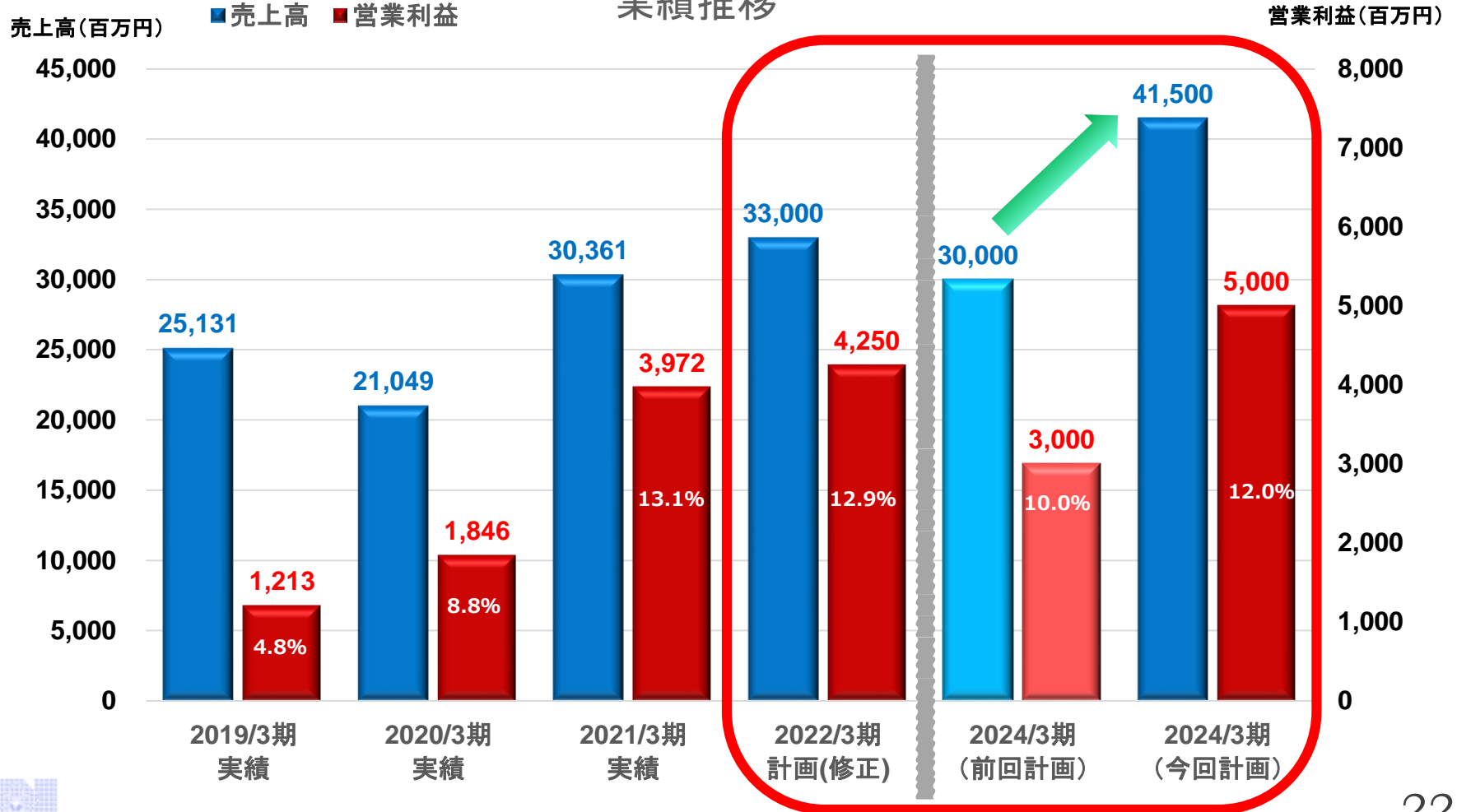
営業利益12%以上（50億円以上）

中期経営計画 '22/3期～'24/3期

'20年8月公表数値を、現在の事業環境及び経営方針等勘案しリバイス

⇒ '24/3期 売上高415億円、営業利益50億円以上を目標とする

業績推移



中期経営計画での取組み

	項目	ターゲット	施策
成長シナリオ 事業ドメイン	電子産業	半導体・FPD	・顧客ニーズに沿ったシステム提案
	その他産業	製薬・その他	・先行優位技術の導入 & 地域戦略による新規開拓
基盤強化	体制強化	エンジニアリング体制強化	・生産効率向上に向けた業務見直し ・人材の補強・育成
		外部ネットワーク連携	・協力会社とのパートナーシップ強化
	研究開発	最先端半導体	・分析及び超純水製造技術の向上
	戦略投資	コアテクノロジーの飛躍	・分析感度の進化
	人材活性化	ダイバーシティ、働き方改革	・女性、外国人、障がい者、シニア人材の活躍機会を創出した職場環境へ
	SDGsへの取組み	環境に配慮した装置構成	・省エネ、省ケミカルへの取り組み

- **半導体投資状況：**

投資の前倒し実施含め、韓国、中国を中心に工場建設・増設多数、国内では半導体製造装置、個別半導体、製造用薬品等の投資が加速

- **FPD関連投資状況：**

在宅、巣籠需要急増を背景に有機EL、液晶共に需要拡大し、投資が再開

- **製薬市況：**

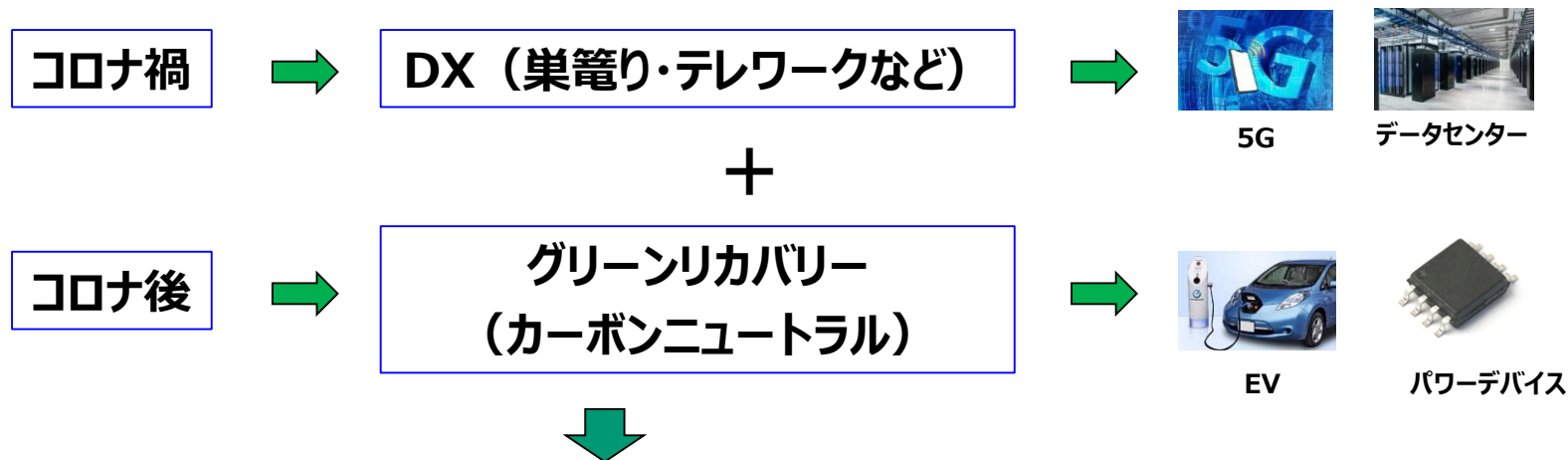
バイオ製剤・ワクチンを中心とした内需製薬関連投資が活発化

- **米中貿易摩擦・日韓問題・新型コロナ感染拡大による市場の縮小：**

- ・米中貿易摩擦は継続 半導体が国家経済安全保障の戦略物資化
- ・新型コロナ感染は依然収束を見ないが、ワクチン接種開始により共存した経済活動に移行し、徐々に活性化

■ 成長が見込まれる半導体関連メーカーへの対応強化

アフターコロナの半導体世界市場成長率10% (英調査会社OMDIA社資料より)



先端ロジック・メモリ半導体だけでなく、レガシー半導体・ディスクリート・パワーデバイスも世界的に需要増

更に半導体市場の拡大へ (工場建設案件増 + 製造装置・関連素材や薬品の需要増)

1. ワクチン製造会社の継続投資への対応

既存顧客の継続投資への確実な対応と、ワクチン製造用水の実績を基に顧客拡大

2. 新規顧客拡大

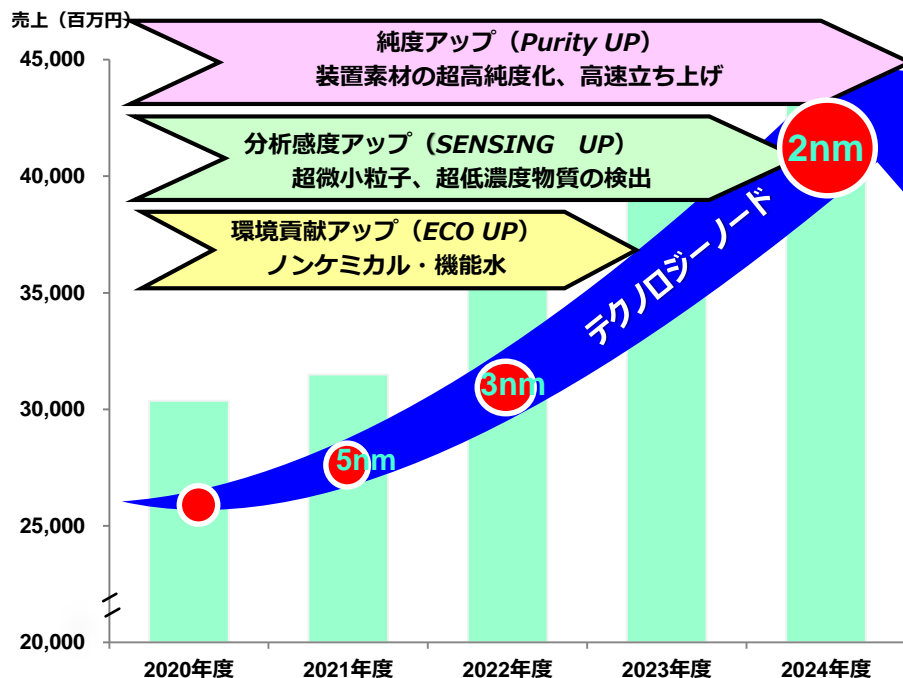
総合ヘルスケア企業（医療用医薬品から一般用医薬品まで）、ジェネリック製薬会社の新規工場への積極的アプローチ

3. 成長への具体的アクション

- ・**超ろ過WFIの積極提案**：自社実績による信頼性・先行技術を核とした営業
- ・**新ユニット装置の開発・上市**：新部署の設立、新規ユーザー開拓、効率的提案
- ・**蒸留器から超ろ過WFIへのレトロフィットを提案**：顧客への省エネ化提案(SDGs)

■ 成長のための超純水製造技術及び分析技術

SMART UP3 ロードマップ



<半導体微細化と将来予測>
半導体微細化ロードマップ
"2nm"から先は? ⇒ 微細化、立体化



- ① 要求水質の超高純度化
- ② 大量使用による超純水製造装置大型化
- ③ 超微量分析技術の確立

成長のための開発課題と対応

- ・ 半導体の微細化 → テクノロジーノード 5nm→3nm→2nm … 純度アップ、分析感度アップ
- ・ UPW使用量増加 → 高スペックのまま大型化 … 省スペース・省エネ・環境負荷低減

■ 中長期的視点

1. 半導体製造装置成長率10% + 製薬関連受注増により増収基調を確実に達成する
2. 各種基盤強化策を実施し、企業体質強化を図る
3. 財務健全性の維持・向上をベースにバランスの取れた投資・資本増強・配当を実施
4. コンプライアンスを遵守し、事業を通じて環境・社会に貢献

■ 中期経営計画KPI

1. 2024/3月期 売上高415億円
2. 営業利益率12%以上確保

- 本資料には野村マイクロ・サイエンス株式会社(以下、弊社)の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述及び資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述及び資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

野村マイクロ・サイエンス株式会社

総務部

TEL 046-228-5195

URL <https://www.nomura-nms.co.jp>